

十人十色の、
ミライを咲かせる

Sakura

さくら個別指導塾

十人十色の、ミライを咲かせる

2021 神奈川県公立高校入試 問題分析資料

さくら個別指導塾

2021 英語-①

- ・問題の形式、設問数、配点には今年も変化なし。だが、コロナの影響で一部学習範囲が縮小したこともあり、全体としては易化。
- ・いわゆるSDGsに関わるテーマの英文など、ここ数年のトレンドは今年も継続。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 リスニング	昨年は、聞き取った情報をもとに簡単な計算をする問題など、やや難しい問題が出題されたが、今年はひねった問題がなく、かなり易くなった。会話文を聞いて、登場人物の質問に答える文を選ぶ(ア)は、質問で使われた疑問詞を聞き取れば答えられる。(ウ)のNo.2は、英文を聞き落としても、設問の英文をよく読めば解けてしまう問題だった。	コロナの影響で、中学3年生で学習する単語が出題されなかったこともあり、今年は易くなったが、この傾向が続くとは限らない。数をこなして、英語を聞く耳を育てておこう。
問2 適語補充	例年通り会話文中の空所に語を入れる形式。今年は3年生で学習する単語が出題されなかったうえ、英文中の単語にも注が付されたことにより、かなり易くなった。文字数の多い単語が狙われるのは例年通り。	今年は特殊な事情から易くなったが、来年は学習する単語の量も増える。しっかり覚えていこう。
問3 適語選択	例年同様の出題形式。疑問詞、SVCの文、時制の一致、現在完了の文が出題されたが、文中のorをヒントにwhichを選ぶ(ア)のように、例年に比べても分かりやすい問題が多かった。選択肢も選びやすく、易くなった。ただ(イ)は、主語が長い前置詞句に修飾されており、文型を掴みにくかった。	出題されるのは基本的な文。主語と時制、文型といった英文の基本ルール、教科書や各種テキストの基本文の形を押さえておこう。
問4 語順整序	出題の形式は例年通り、1語不要な語が混じった、3番目と5番目に来る語を答える語順整序問題。だが、3年生の前半までに学習した単元からの出題が多く、問題自体も、ひっかけの不要な語を選んでしまっても答えに影響しないものが2題あるなど、かなり易くなり、ここ数年で最も解きやすかった。(イ)だけはやや癖のある問題だった。	問4の易化は、今年だけの一時的な現象だと思われる。来年は、現在完了進行形、原形不定詞、仮定法などの高校から降りてきた単元が範囲に入る。要注意。

2021 英語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
大問5 条件作文	例年と同じ、イラストと英文を読み、与えられた単語を使って英文を書く条件英作文。How many + 名詞の複数形～？の疑問文が出題されたが、この形でミスがしやすい複数形名詞が問題の条件の中で示されていたこともあり、昨年同様か昨年よりやや易しい、といった難易度だった。	例年、疑問詞を使った疑問文が出題されている。 英作文とはいえ、難易度は決して高くないので、基本的な疑問文の作りを覚えてしまおう。
大問6-8 長文	<p>問6 英語によるスピーチの読み取り。テーマは食料廃棄の削減で、昨年同様、SDGsに関係する内容だった。今年は3年生の配当単語に注が付けられたこともあり、文意は掴みやすかった。また、各設問の内容・形式も基本的なもので、かなり易しくなった。</p> <p>問7 英文と図表の読み取り。昨年並みか、やや難しくなった印象。(ア)は、対話の内容と地図を紐つけて、登場人物の通った経路をマッピングする問題。英文を理解したうえで、その情報を他のものに関係付ける必要がある。(イ)は、ある人物について説明した英文を読んで、その人物の経歴を整理した年表を埋める問題。大学入試共通テストの試行調査問題を思わせる内容だった。</p> <p>問8 会話文の読み取り。図書館でのボランティア活動について中学生が話すといった内容で、テーマ的には昨今の入試トレンドから外れている。だが、登場人物のある一日のスケジュールを整理して答える(ア)は、情報量がそれなりに多く、内容も錯綜しており、英文を読む力に加え、情報処理力が問われる問題だった。一方で、thatの指示内容を答える(イ)など、基本的な問題も見られた。</p>	<p>コロナの影響による英単語学習範囲の削減があったものの、読み取った情報をうまく活用して答える必要がある問題が出題され、問6以外はそこまで易しくならなかった印象。</p> <p>一方で、比較的読みやすい英文が出題される傾向は昨年から続いており、基本的な英文読解力がまずは重要。英文を読み慣れるため、量をこなしていくことが大事。</p> <p>また、SDGs系のテーマは今後も出題されやすいと思われる。要注目。</p>

2021 数学-①

- ・昨年度の入試から出題の順番や傾向が変更となったが、今年度も昨年度入試と同じ出題傾向となった。
- ・中3単元からの出題が減り、中2内容が増えたのはコロナによる休校があったためと思われる。
- ・初めての出題がいくつかあったが、比較的取り組みやすく、全体では難易度は昨年より下がった印象である。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 計算	<p>(ア)~(オ)の5問の計算問題で、問題数は変わらず。変更点は、ルートの有理化をする計算がなくなったこと、単項式の計算が乗除となったこと。</p> <p>少し変更はあったものの、基礎計算ばかりなのですべて正解したいところ。</p>	<p>昨年度も今年度も計算問題に少し変更があったが、教科書レベルの基礎計算の出題となっている。</p> <p>今後もこれまで出題されなかった計算が出題される可能性もあるので、各単元の基礎計算はできるように練習しておく。</p> <p>早く正確に計算ができるようなトレーニングが必要。</p>
問2 小問集合	<p>昨年度は(ア)で連立方程式が出題されたが、今年度は過去の出題傾向に戻り因数分解の問題であった。(イ)~(オ)は傾向に変更なし、(カ)も昨年度同様に円周角の問題が出題された。</p> <p>平行という条件から同じ角度を導き、さらに補助線を引き円周角の定理を使っていく、応用問題であった。</p>	<p>(ア)では連立方程式か因数分解か、どちらが出題されても解けるよう計算力をつけておく。</p> <p>2次方程式や変化の割合など、毎年傾向がほとんど変わらないものも確実に解けるよう訓練する。その他の問題も過去に出題されており、かつ全国入試ではよく出題されるオーソドックスな問題なので、様々な基礎的な問題を取り組んでいく。</p> <p>角度の問題は昨年と同様、答えに至るまでに図形の性質をいくつも使う。図形の解法を多く知っておくと良い。</p>

2021 数学-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問3 証明と資料の活用など	<p>昨年度入試から、証明問題は問3に移行された。今年度も同様に穴埋めの証明問題が出題された。神奈川県入試ではあまり見かけない、合同を証明するものであった。出題パターンの変更に面食らった受験生もいたかもしれないが、問題自体は基本レベルの穴埋めであったので解きやすかった。証明の後の面積比から線分の長さを出す問題は難度が高い。</p> <p>(イ)は昨年と同様、中1の資料の活用からの出題。資料の数が減り、昨年より取り組みやすかったが、選択肢を一つずつ確認していくので、分析力が問われる。また、資料が相対度数を縦軸にするグラフであり、見慣れない生徒もいたかもしれない。</p> <p>(ウ)は例年、難度の高い図形問題が出題されていたが、今年度は変更された。空の水槽に水を入れていくようすを関数で表した問題で、神奈川県入試ではあまり見かけない出題となった。入れる水の体積から何センチの深さまで水が溜まるかを計算するもので、1次関数の思考というよりは体積の計算ができれば解けるものであった。初めての出題であったが落ち着いて考えれば難しくはない。</p> <p>(エ)は昨年と同様、式を記述するものであった。2019年度は方程式の過不足、2020年度は歯車の反比例、今回は人数の増減を割合の式で表すものであった。連立方程式を作るもので、教科書や定期試験で触れるような、その単元では良く見る問題が今年も出題された。今回は特にひねりもなく、基本問題通りの出題であった。</p>	<p>証明は結論を答えるというより、証明の過程で必要となる根拠を問われることが多い。証明を最初からしっかり読んで、流れを理解する必要がある。今回は合同の証明となったが、相似の証明の方が出題されているので、図形の定理や、良く使われる証明の手法を知るためにも多くの問題に触れると良い。</p> <p>資料の活用は、多くの情報を処理する必要があり、選択肢を確認するのも時間がかかる。入試レベルの問題で多く練習しておくが良い。</p> <p>(エ)の対策としては、方程式や関数などの問題で教科書レベルの典型パターンの問題に触れておき、式の作り方を復習すること。割合を使う文字式は出題されやすいので、要注意。</p>

2021 数学-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 関数	<p>例年通りの関数の問題。</p> <p>与えられた相似比を使って座標を出す(イ)では、2020年度や2017年度の出題のような比がそのまま座標になるものであり、求めやすかった。最近の傾向通り1つの座標は分数になり、計算力が問われた。</p> <p>(ウ)は難易度の高いものが今年も出題された。</p>	<p>座標を導くまでの手順がある程度パターン化されている。そのパターンを身につけるため、過去問に触れていく。</p> <p>比や図形的性質を使って座標を求める訓練、座標が分数になっても処理できるような計算力を身に付けていく必要がある。</p>
問5 確率	<p>昨年同様、確率の問題が出題された。</p> <p>さいころ2つの出題に戻り、(ア)(イ)どちらもカードの枚数を問われていることに気づけば、時間の短縮となったであろう。出た目の約数を考える問題は、過去にも出題されたことがある。</p>	<p>単純にパターンを数えるだけでなく、答えを導くために図形的な性質を使ったり、計算処理をしたりする問題を解いておくこと。</p> <p>時間との勝負となることもあるので、時間配分の仕方を身に付けておくこと良い。</p>
問6 空間図形	<p>例年通りの立体の問題。</p> <p>今年は円錐の問題で、(ア)と(イ)は2018年度入試とほぼ同じ出題となった。</p> <p>(ウ)は立体の表面に最短距離となる線を引くものであった。典型パターンではあるが、2つの最短距離を考える必要があり、レベルは高い。</p>	<p>図形問題を解く上での着眼点を身に付けていく。</p> <p>三平方の定理や相似は必ず使うので、まずは平面図形での解法から固めていくと良い。</p>

2021 国語-①

- ・問題の形式、設問数、配点には変化なし。コロナの影響が漢字のみに限定されていたため、難易度にも大きな変化は見られない。
- ・小説では、時代小説が出題される傾向が復活。論説文、資料の読み取りのテーマは現代的で、入試トレンドに沿うもの。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 語彙・文法	漢字と文法、短歌の読み取り。設問の形式は昨年と同様だが、今年はコロナの影響で3年生の配当漢字が出題されなかった影響で、(ア)(イ)は大幅に易化した。(ウ)の文法問題は副詞語末の「に」の識別。こちらは昨年に比べ難しくなった。(エ)俳句の読み取りは、選択肢を絞り込みにくく、難しかった。	漢字問題の大幅な易化は、あくまで今年の特 殊な事情によるもの。漢検3級までの漢字は しっかり覚えていこう。 短歌・俳句の問題は、書かれていないことを 読み取りすぎないように。
問2 古文	平安時代末期の説話集『今昔物語集』からの出題。古い時代の作品であり、一部分かりにくい語もあったが、そこまで読みにくいものではない。設問の難易度は例年並みで、ストーリーを正確に追えていれば答えられるものだった。	古代や中世の人々の生活習慣をイメージで できると、古文を読む助けになる。 古文を読みながら、周辺知識も少しずつ増や せるといい。
問3 物語文	出典は吉川永青「憂き世に花を」。昨年は現代を描いた小説からの出題だったが、今年は江戸時代を舞台とした作品となり、ここ数年間続いていた時代小説を出典とする流れに回帰した。全体の難易度は例年並みかやや易しいといったところ。あらすじを追うことができれば、容易に2択まで絞り込める選択肢が多かった。(カ)の表現技法を含めた作品全体の内容を問う問題では、小説における「視点」の意味を理解していないと、ダミーの選択肢にひっかかってしまったかもしれない。	中高生を主人公とした、受験生にとって分か りやすい小説ではなく、仕事に悩む大人たち を描いた小説や、明治時代、江戸時代とい った過去を舞台とした小説が出題されやすい傾 向はおそらく今後も続く。 日頃から、意識的にそうした作品を読むよう にしよう。

2021 国語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 論説文	<p>吉見俊哉「知的創造の条件」からの出題。インターネットによる情報収集と読書を比較しながら、体系的な知識の習得には読書が有効であると説く。</p> <p>単なる「情報」と、それらを有機的に組み合わせた体系である「知識」の違いをおさえることが、理解の上でのポイントになった。</p> <p>設問の形式は例年と同様で、全体的な難易度としても例年並み。</p> <p>本文中から書き抜いて答える(オ)は、筆者の用いた比喻の意味を理解して解く必要があったが、そこまで難しいものではなかった。</p>	<p>問題演習を通じて、筆者の主張とその根拠を掴むこと、対比されている概念の把握等、論理的な文章を読む際の基本的なスキルを身に付けよう。</p> <p>神奈川県入試は全国的な入試のトレンドに沿っているので、他県入試に触れて置くことも大事。</p>
問5 資料の読み取り	<p>会話文と資料の読み取り。テーマはモーダルシフト(エネルギー問題等の解決のために輸送方法を転換すること)で、SDGsに関わるトレンドに沿っている。</p> <p>選択肢問題の(ア)は、表から読み取った数字をもとに簡単な計算をして答えるもので、昨年と同程度の難易度だった。</p> <p>(イ)の難易度も昨年度と同じくらいで、そのまま書き抜いて答えることはできないものの、会話文の内容をまとめることで比較的簡単に書くことができた。</p>	<p>出題されやすいテーマはある程度決まっているので、論説文の問題演習をしながら、そうしたテーマに関する知識を身につけることが、理解の助けになる。</p> <p>図表を読む問題の訓練は、社会の問題演習等でも意識して行っていこう。</p>

2021 社会-①

- ・昨年度同様の7大問構成だが、小問数と配点は変化した。昨年配点の少なかった地理分野に、他分野同等の配点がなされた。
- ・コロナの影響により、国際社会の単元からの出題がなかった。
- ・一部の問題に新傾向が見られたが、難易度自体は昨年から大きく変わらず。基本的な知識に重点が置かれた内容だった。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 世界地理	<p>小問数、配点が昨年より増えた。北半球のメルカトル図と、谷川俊太郎の詩「朝のリラ」を組み合わせたユニークな形での出題となった。</p> <p>直接、国語の知識が問われるわけではなかったが、教科横断的な問題だった。難易度としては比較的易しく、複雑な思考が必要な問題は少なかった。</p> <p>基本的な知識の定着度が試された。(オ)の表2は見慣れない形式のもので、戸惑った受験生もいたかもしれないが、読み取る内容自体はシンプルだった。</p>	<p>昨年同様、複数の資料を使った複雑な問題に見えるが、実際には基本知識を問う問題が中心だった。</p> <p>各地域ごとに、重要なポイントをしっかりと覚えていこう。</p>
問2 日本地理	<p>世界地理と同じく、小問数と配点が増えた。今年は北海道地方を中心とした出題だった。</p> <p>例年出題される地形図の読み取り問題がなくなったが、これは分野横断型の問7に移動したため。世界地理同様、こちらも基本的な知識を問う問題が中心だった。(エ)雨温図の読み取り問題は、グラフから読み取れることと気候の知識を組み合わせる問題で、やや複雑だった。</p>	<p>こちらも世界地理同様、基本的な知識を問う問題が中心だった。</p> <p>また、グラフや表を使って簡単な計算をして答える問題もよく出題される。問題演習を通じて慣れておこう。</p>

2021 社会-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問3 近代以前の歴史	<p>文化財の歴史を中心としながら、近世までの歴史を総ざらいするような形式。『源氏物語』や東大寺南大門の金剛力士像など、文化史の知識を直接問う問題も出題された。</p> <p>(ウ)は天皇と藤原氏の関係を示した系図を読み取る問題で、神奈川県では珍しい形の問題だった。</p> <p>ただ、基本的な知識に重点が置かれているのは昨年同様で、難易度としては易しかった。</p>	<p>歴史的な出来事の前後関係を問う問題が例年出題される。</p> <p>各時代の年表を使って主な出来事の流れを頭に入れよう。重要事項の具体的な内容も覚えよう。</p>
問4 近代以降の歴史	<p>帝国ホテルの歴史を切り口にした問題。一見特殊な問題に見えるが、問われている内容自体は、昨年と同じく基本的なものだった。</p> <p>今年は特に、(イ)、(ウ)、(エ)(ii)と、歴史的な出来事の起こった時期や前後関係を問う問題が多かった。</p> <p>年表をおさえられていれば、易しかったのではないかな。</p>	<p>問1～4全体に言えることだが、一見難しそうだが、基本知識の把握ができていれば、しっかりと得点できる内容だった。</p> <p>地図や年表、一問一答をしっかり頭に入れよう。</p>

2021 社会-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 公民①	<p>東京都についての調べ学習を切り口に、伝統行事、人権と憲法、政治の仕組み、消費生活について問う問題だった。</p> <p>難易度的には昨年から大きな変化はなく、基本的な知識をしっかりと身に付けていれば答えられる問題が多かった。</p> <p>表の読み取り問題の(ウ)も、大まかな割合を把握できれば答えられるものだった。</p>	<p>問われているのは基本的な知識だが、出題のされ方には少しひねりが加えられていた印象。</p> <p>「正しいものの組み合わせを選ぶ」形は頻出。模試や過去問で解き慣れておこう。</p>
問6 公民②	<p>「きまり(ルール)」についての調べ学習を中心に、人権と憲法、政治の仕組みについて問う問題。</p> <p>今年はコロナウイルスの影響によって、為替などの難しくなりがちな分野が出題されなかった。</p> <p>(エ)は言葉で書かれた資料から読み取れることを答えるという、これまではあまり見なかった形の出題だった。共通テストの影響か。</p>	<p>やや珍しい形の出題も見られたが、この大問も、基本事項を問う問題が中心だった。</p> <p>まずは用語をしっかりと覚えること。</p>
問7 分野横断型	<p>滋賀県大津市の地形図を軸にした分野横断型の問題で、地理・歴史・公民の全要素が含まれていた。</p> <p>例年問2で出題されていた地形図の読み取りは今年は問7での出題となった。</p> <p>また、時差を計算する問題はなくなった。昨年はいくつか見られた難しい小問は今年は見られず、落ち着いて解いていけば基礎知識で答えられる問題が多かった。</p>	<p>昨年と同様、全分野横断型の大問となったが、問われている内容自体は難しくない。</p> <p>何を聞かれているか、落ち着いて考えられるように、練習しておこう。</p>

2021 理科-①

- ・例年通り、問1～問8の出題で物理、化学、生物、地学の順番での出題となった。単純な知識で答えられるものだけではなく、大学入試の傾向を反映させたような、与えられた情報を頼りに分析をする問題もあった。
- ・情報量の多い図やグラフを分析し、基本知識とあわせて解いていくものが目立った。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 物理小問	(ア)では2017年度で出題された陰極線、(イ)では2019年度で出題されたような電流や電圧を比較する問題が出題された。(イ)では、電流や抵抗値などが数値で与えられず、電力の公式から数値の大小を比べるもので、過去の出題傾向と似ていた。(ウ)ではここ数年出題のなかった凸レンズの問題であった。与えられた条件でどのような結果となるかを考えるもので、凸レンズに関する基礎知識とあわせて解くものであった。	<p>基本的な知識を身に付けておくこと。</p> <p>過去の神奈川県入試の問題で触れられている単元はもちろん、全国入試でよく出題される基本問題を解き、理解を深めていくこと。単に用語を覚えるのではなく、それが意味するものやなぜそうなるのか原理もあわせて理解する必要がある。</p>
問2 化学小問	(ア)では状態変化における粒子の運動の様子を問うもので、基本知識で解けるものであった。(イ)は酸化銀、(ウ)は化学電池の問題。(イ)の酸化銀は2019年度に出題があったが、今回のように反応式を完成させる問題はあまり出題がなかった。(ウ)は化学電池の原理を理解しておく必要があった。	
問3 生物小問	(ア)は顕微鏡に関する問題。昨年は実験器具の問題が出題されなかったが、過去には顕微鏡やガスバーナーなど出題されたことがある。今回の問題は2019年で問われた内容と似ていた。(イ)は植物のつくりについての問題でシダやコケ植物の知識で解けるものであった。(ウ)は心臓について、右心房などの用語を覚えているだけでは解けず、どこに繋がりとどのように収縮し血液を送り出しているのか、分析をする必要があった。	
問4 地学小問	(ア)は地震に関する問題。震度やマグニチュードについて細かい数値を覚えていなくとも、入試に必要な定番知識で答えを導くことができた。(イ)は火成岩の問題。組織の状態を文章で記述されていたので、正しく読み取る必要があった。(ウ)は天体の問題。季節ごとの太陽の動きから、影がどのように移動するか考えるもの。基礎知識から推測をする必要があった。	

2021 理科-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 物体の運動	速さを計算し数値を答えるものと、文章中に当てはまる内容を答えるもの、合計2問の記述解答する問題が出された。 斜面を使った物体の運動については、2017年度に出題された。今回は、力の関係から運動がどのようになるか推測をする問題で、原理を理解している必要があった。	各問ではメインとなる実験や観察に関することから出題となっている。
問6 溶解度の実験	神奈川県入試では出題率の高い、溶解度の問題。単純に濃度や結晶の質量を求めるようなものではなく、どのような実験をすれば良いか、思考力を問われるものが出題された。また、溶解度曲線から濃度を計算し、結晶を取り出したり、水を蒸発させたりするとどのようになるか、理解が必要であった。 (ウ)と(エ)ではそれぞれ2問ずつの出題があったが、どちらも正解しないと得点とれないものであり、受験生にとっては厳しいものとなった。	資料を読み取ったり、考察したりする前に基礎知識で答えを導けるものがある。まずは基礎を身につけ、丸暗記ではなく原理をおさえていく必要がある。
問7 アサガオのつくりと遺伝	(ア)は植物の知識問題。過去に出題されてきたような、文中の記述から正しく述べているものを選ぶスタイルの出題。(イ)では神奈川県入試でよく出題される、染色体の数に関する問題。与えられた情報から、結果を予測するような問題もあり思考力が問われた。(エ)は問6と同様、(i)と(ii)の両方正解する必要があった。	また、実験から得られる考察や、この結果を生み出すためにはどんな実験が必要か、というような思考力が必要な問題が出題されているため、過去問や全国入試問題にも触れて練習していくと良い。
問8 天気	(ア)と(イ)は天気の基本知識の問題。問題の中心は川霧と呼ばれる現象について、対話文をもとに考察をしていくものであった。 霧ができる原理を理解し、対話文から答えを導く思考力が必要であった。湿度の計算も出題された。	